


【個人】

提出 令和2年(2020年)9月7日

山 行 報 告 書

山行報告提出者 : 鈴木 聖

山 域・山 名： 槍ヶ岳、3,180m (北鎌尾根経由)		長野県松本市
入山日：2020年9月3日～5日 (木～土) 2泊3日		
プラン担当者 正：鈴木聖 副：		北鎌尾根から見た槍ヶ岳
参 加 者	L：報：記：鈴木聖 今田	
	男 2名、女 0名、計 2名	
天候 9月3日 曇り 夜半雨 9月4日 曇り のち雨 9月5日 晴れ		
9月2日(水)	集合時間：22：15 バスタ新宿ロビー奥 22：25 発アルピコ上高地行きバス乗車	
9月3日 (木)	上高地着5：20 6：00 山行開始-8：30 横尾-10：30 槍沢ロッジ-13：00 水俣乗越- 16：00 北鎌沢出合 (テント泊) 行動：10h00m	
9月4日 (金)	任意起床し5：00 発-8：00 北鎌コル-11：00 独標-17：00 北鎌平- 18：00 槍ヶ岳取り付き (テント泊 時間切れビバーク) 行動：13h00m	
9月5日 (土)	任意起床し6：50 発-8：00 槍ヶ岳山頂-8：20 肩の小屋-11：00 ババ平- 14：00 横尾-16：50 上高地 バス、鉄道で松本駅経由JRで帰宅 行動：10h00m	
荒天候時のエスケープルート：9月3日 停滞するか引き返す。9月4日引き返す。 9月5日 小屋に避難または速やかに下山。		
装 備 と 食 糧	共同装備：8mm×30m補助ロープ (今田) 浄水器、ラジオ (鈴木) 共同食：無し 車提供者：無し	
	個人装備：ヘッドランプ、雨具、コンパス、地図、替衣類、テント (ツェルト)、シュラフ、 エアマット、水、帽子、グローブ、スパッツ、ヘルメット、ハーネス、ATC、 スリング・環ピナ各数個、ストック (任意)、ストーブ式、クッカー、虫よけ、 携帯トイレ、日焼け止め、夜行バス用空気枕、アイマスク (コロナ対策) マスク、ハンドジェル、 個人食：食事×8 (9/3 朝昼夜、9/4 朝昼夜、9/5 朝昼) プラス予備食、行動食 次ページへ	

9月3日 上高地は人もまばらで登山者も極端に少ない。水俣乗越までは一般道を順調に歩く。水俣乗越から北鎌沢出合までは急なガレ場が続き下降到難儀したが、後半歩きやすい補助道が現れ下りきることができた。疑心暗鬼で見つけたビバーク地の出合では、あるはずの水流が全くなく途方に暮れたが、別のパーティーが貧乏沢側に水場を発見し事無きを得た。

9月4日 夜半の雨も上がりコルへ向けて大岩の急登を詰めた。稜線からは踏み跡もあり独標へ向け歩き出したが、雨がぽつぽつ降り始め岩場の登攀が危惧された。

独標手前の岩場では登りつめたところでトラバースしようとしたところで左手が滑り、後ろ回りに回転し頭から8mほど滑落。幸い地面の岩にヘルメットの真上がまともにあたり落下を止めることができ手の平打撲だけで大事には至らなかった。

雨で視界も悪く独標トラバース後もロープ出しなどで歩が進まず、北鎌平を過ぎた基部で日没となり岩ゴロの不安定地でビバークとなった。

水も底をつき調理もできないため一晩水無し食事無しの苦行を強いられた。

9月5日 朝から快晴、早く肩の小屋で水にありつきたいと念じながら最後の詰めに向かうが、山頂直下はチムニールルートではなく右側のガレ場から山頂に到着した。

360° 最高の視界が得られたが空腹と枯渇には勝てず早々に下山した。肩の小屋で腹と喉を満たし、長い上高地までの下山路を疲れ切った体に鞭打ち何とか帰路につくことができた。

総括としては、滑落、ビバーク、水なし食事なし、など想定外の出来事が多発し、今思えばいい経験になったといえるが、逃げ道のないバリルートでの不測事態への対応は今後の課題といえる。

以上